

会議録（会議結果概要）

名 称	令和7年度第1回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会
開催日時	令和7年10月24日（金） 14：00～16：00
開催場所	各務原市産業文化センター 7階 7-1会議室
出席者	富樫幸一会長、尾関智恵様、阿部雄介様、近藤亜矢子様、永田孝也様、藤井聰美様、福睦徳様、鵜飼明男様、別宮理恵様、今尾真也様、津崎陽菜様 ※欠席者：松井大輔様、田頭香歩様
議題及び審議・協議結果等の概要	<p>次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の効果検証 (2) 企業版ふるさと納税活用事業の効果検証 (3) 地方創生に関する意見交換 <p>3 閉会</p> <p>1 開会 «事務局より説明» • 資料確認</p> <p>«企画政策課長あいさつ»</p> <p>2 議事 (1) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の効果検証 «事務局より説明» • 資料2-1：デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の効果検証について • 資料2-2：デジタル田園都市国家構想効果検証シート ①空宇宙博を核とした「まちの賑わい」創出事業（観光交流課） ②文化芸術による地域の担い手育成・拡大プロジェクト（いきいき楽習課）</p> <p>«意見交換» 【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> • VRシミュレータなどは専門分野であり、またメタバース空間で世界中と交流しているが、空宇宙博は非常に魅力的であり、一度は行きたいという声も多く聞く。それを踏まえ効果検証の資料を見ていると、いくつか気になる点がある。まず、入館者数などの指標について、コロナ禍があったとはいえた目標に達しなかったことから「C」という評価がされている。ご説明いただいたように魅力的な企画展や展示物について、大変努力されているのは理解しているが、生かしきれていないように感じるため、もう少し生かせるよう来年度以降考えていただきたい。 • このような意見を申し上げた理由として、ご存じの方もいるかと思うが、天皇陛下が空宇宙博へ来場された際に、岐阜県の高校生が人工衛星をつくり、それを打ち上げるという報告をした。それについて今年動きがあり、8月24日にNASAに引き渡し、打ち上げがされ、9月19日に宇宙空間に放出され無事成功した。これは県の管轄なので市に言うべきではないかもしれないが、この時に、県知事と岐阜大学の学長が参加するイベントが開催され、また中継もされるなど盛り上がっていたため、市としても絡んでいくことができればよかったと感じている。

・また、岐阜大学で宇宙工学講座というものを行っており、GHSという先ほど申し上げた人工衛星を高校生が作るプロジェクトに、大垣市や岐阜市、高山市、可児市からは参加者がいるが、各務原市からは1人もいない。空宇宙博のような施設は、市外の人の誘客も大事かもしれないが、地元の人たちの航空宇宙に対する学びをもう少し増やしていく機会となると良いと感じており、展示や企画は素晴らしいため、その魅力をもっと発信していかなければよいのではないか。

【出席者】

・私も各務原市在住で、他県の人などから航空宇宙博物館についての質問を受けることがある。ただ、インフラがなく、また他の施設がない所にあるため、車を利用しないとなかなか行けない。特に、若い人たちに学んでいただくという観点からすると、自転車で行くのかという話にもなってしまうため、もう少しインフラが整っているとより有効に活用できると思う。また、周りには飲食店などもないため、そういう企業誘致のような、空宇宙博周辺施設の充実も考えていただければと思う。

【出席者】

・リニューアル後に空宇宙博に行ったが、企画棟が新しく完成し、そこに展示されているものや、シミュレータ系は小さいこどもから大人まで楽しめるものであると感じた。

【出席者】

・毎年11月くらいに航空祭が開催されるが、最近はブルーインパルスが来ない。来てくれる手段はないのだろうか。来てもらうことができれば、それが非常に有効な集客手段となると思う。

【会長】

・KPIの三つ目の「県内航空宇宙産業の製造品出荷額」について、これはコロナ禍の影響があり製造業の調子が悪かったため仕方ない部分があるという議論は、産業振興ビジョンの委員会でもあったが、それは各務原市でどうこうできる話ではないため、それでも数値を拾い、関係の企業や下請けの企業に関するコメントを入れられると良い。

【出席者】

・宇宙関係で空宇宙博のイベントに携わったこともあるため、各務原の人材育成、航空宇宙関係のものづくりの活発な地域として、そこからの人材育成にはとても興味がある。同様の背景がある地域は他にもあるとは思うが、このような良い博物館があるところはなかなかないため、それを生かしたこれからの中づくりというのが、重要な部分だと思っている。
・宇宙事業はこれから規模が拡大していくことが見込まれる中で、それに携わる人もこれから増えていくと思うが、航空宇宙に関わっていきたい、そのような仕事に就きたいという全国の方に各務原に来てもらうために、これからこの仕事に繋がっていく事業を、空宇宙博起点でやっていただけたらと思う。既に地元と連携してやっていることもあると思うが、ぜひ力を入れていただきたい。

【出席者】

・空宇宙博のイベントのPRについて、例えばSNS発信を多く行った、またはメディアを活用したなど、どのような形でPRしたかを教えていただきたい。

【事務局】

- ・主にホームページやSNSを活用した。また、いくつか取材の申し込みをいただき、テレビ番組で取り上げられたこともある。こちらから広告を打っていくことはなかなか難しいが、Webやマスマディアなども活用した広報を行っている状況である。

【出席者】

- ・どんどんSNSで発信していくのがよいと個人的には感じている。

【会長】

- ・バズらないと、なかなかお客様に来てもらうことができない。
- ・エンジン03の方はどうか。

【出席者】

- ・夜楽に参加した。かとれあくらぶで食事をいただきながら、著名な方が外部から見える岐阜の良さをお話しいただき、また、こちらから岐阜のいいところを紹介するなどの情報交換をして、有意義な時間を過ごすことができた。一方で、これも広報の方法かもしれないが、イベントについて知らない方が多く、このかとれあくらぶは定員に達せず、職員の方の参加もあったようであった。職員の方も楽しかったとは思うが、市民の方に知っていただければもっと応募があったと思うと、少し残念に感じた。
- ・ただ、事業としては、国から予算をもらい、この事業ができたということ 자체については最終的にはA評価でもよいと思っている。市の自己評価としてはKPIである人数などで判断されたと思うが、この会はしあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会であり、しあわせを実感するというところでは、数字だけでは測れない部分も多くあると思うため、そのような部分があれば、この後の事業説明で教えていただきたい。それが、総合計画を目指す、市民のしあわせがどれだけ達成できているのかという検討にも繋がると思っている。これは、交付金を受けたことに対するKPI評価だと思うため、それを噛み砕いていってしあわせ実感にどのようにつながったのかについても教えてほしい。
- ・いろいろなことについて、手段と目的があると考えているが、こうなりたいという目的があつての手段であると思うため、様々な計画について、計画を立てるだけでなく、常に意識すると良いと思う。

【会長】

- ・エンジン03は岐阜市でも開催していたが、講師として錚々たる方がいらっしゃった。ただ、アンケートの結果を資料の9ページで見ると、40代、50代の中高年が多いと感じる。もっと若い人やこどもたちも参加できるようにという観点ではどうか。

【出席者】

- ・若い人の参加が少ないと聞いて、講師を見ていると、私が知っている方が各務原会場だといない。また、おそらく広報紙やホームページなど、若い人が使わないようなもので広報されていて、私も実際この事業について知らなかつたため、TikTokなどのSNSを活用すると良いのではないか。愛知県の犬山市のモンキーパークでは、「モンパdeコンパ」というイベントがTikTokで話題になっているため、若者がよく使う媒体を使うことで、若い人たちも関心を持ってくれるのではないか。エンジン03で言えば、講師は年代が上の方たちであり、若い人々はテレビを見ることが少ないので、テレビや本などで有名な方よりは、TikTokやYouTube

などで活躍されている方が若い人は興味を持つと思う。

【事務局より説明】

- ・資料2-2：デジタル田園都市国家構想効果検証シート
- ③特別支援学校児童生徒のためのICT化事業（教育総務課）
- ④介護認定審査会デジタル化事業（高齢介護課）
- ⑤保護者等のための保育所ICT化事業（こども政策課）

【出席者】

- ・デジタル化の懸念点として、デジタルに慣れていない人、使いこなせない人もいるため、いいものを作ったとしても、お互いに機能が使いこなせない可能性がある。受け手側の研修の機会を設けることや、簡単なシステムを作るなどという点も課題である。

【出席者】

- ・事業内容を見て、この3つに関しては将来的に絶対に必要なデジタル装備だと考えるため、控えめな評価がされているが、今後様々なことに役立てていける機能を実装できたという点で、良いことだと思っている。

【出席者】

- ・介護認定のデジタル化に関して、デジタル化により職員の負担軽減に繋がったと思うが、そのあたりのデータはあるか。

【事務局】

- ・デジタル化前は委員には紙資料を郵送していたが、令和7年4月から完全ペーパーレスに移行し紙資料はなくなった。それにより、発送のために郵便局へ行く手間や、審査会終了後に紙資料を破棄するという手間が削減され、効果はかなり感じている。

【出席者】

- ・例えば残業時間が減ったなどの効果はあったか。

【事務局】

- ・具体的な時間は把握していないが、職員の時間外勤務が減ったとは感じている。また、資料を郵送していた頃は、郵便事情で手元に届くまでに時間差があったが、デジタル化後は、資料をクラウド上にアップし、メールでお知らせできるため、委員の皆さんにすぐ資料を見ていただけるという効果もあった。

【出席者】

- ・慣れるまで大変だったと思うが、デジタル化によりかなり効率化が図られたということでよいか。

【事務局】

- ・事務局が業者より研修を受け、事務局より委員に対し研修を実施するという形で導入を進めたが、委員には高齢の方もおり、紙資料に慣れていた方もいた。委員にはiPadをお渡ししており、iPadでは拡大すれば資料の細かい部分も見えるという利点はあるものの、それでも慣れない方もいたが、今は完全ペーパーレス化により実施していただいている。

【会長】

- ・まだZoomでのオンライン審査は行っていないということだが、Zoomでも時間を合わせなければならぬことや、病院や事務所、家庭などでZoomにつながらないということもあるかもしれない。その辺りをうまくやらないと、一方では負担が増えることがあるかもしれない。

【事務局】

- ・来月の11月からZoomでのオンライン審査を実施する。まだ実際にやっていない段階ではあるが、例えば病院の地下などでは繋がらない可能性もある。そういう場合は電話で代替することも想定しているが、委員の方にはなるべく繋がりやすい環境での参加をお願いしている。

【出席者】

- ・保育所のICT化のKPIにあるシステム利用満足度について、保護者の方の評判は良さそうだが、保育士の満足度が低い印象を受ける。これに関して、今後何か対策を行っていくのか。

【事務局】

- ・保育士は通常業務のみでも大変な部分もあるため、徐々に慣れていくような形でデジタル化を実施している。現時点ではデジタル化にも慣れて、それほど負担はないと考えているが、ある程度こちらからICTにどんどん切り替えていくという姿勢を見せて、一緒に考えていくことが必要だと考える。満足度については、目標値までは達していないが、少しずつ良くなってきていていると考えている。

【出席者】

- ・小学校ではスマート連絡帳というツールがあり、そちらでは、学校側としては情報を発信しているものの、保護者側で見てくれない人が多いという意見があった。これは、アプリに未読マークがつかない設定になっていることが原因だと考えており、学校側は見てくれないとあっていても、受け取る側としては未読マークがないとなかなか見ない。そのような情報の交換や検証をしないと、せっかくツールがあっても、相互の連絡という点で機能しないため、保護者の代表と行政側とで意見を交換できるような仕組みがあるとより活用できるのではないか。

《事務局より説明》

- ・資料2-2：デジタル田園都市国家構想効果検証シート
⑥自治会活動デジタル化推進事業（まちづくり推進課）
⑦市民と市役所をつなぐ双方向デジタルコミュニケーション基盤構築事業（情報推進課）
⑧GIS活用による道路台帳データ公開事業（建設管理課）

【出席者】

- ・自治会アプリの結ネットは私もよく使っており、双方向の意思確認ができる点で便利である。現在はバージョンアップを図っており、最終的には各務原市民全体にまで至ろうと試みている状況である。

【出席者】

- ・全体的にデジタル化にいろいろ取り組んでおられるが、昨今はサイバー攻撃を受けて様々な企業がダメージを受けている。各務原市としてセキュリティ対策についてどのように考えているか教えていただきたい。

【事務局】

- ・ 庁内でセキュリティポリシーを定めており、それに準じて様々な新規サービスは導入しているところである。また、行政のネットワークである LGWA Nを整備しており、そちらは行政内部の閉ざされたネットワークであるため、情報が漏れることなくできている。サイバー攻撃や、インシデント等があるが、十分に気をつけて実施している。

【会長】

- ・ 自治会の方の委員会にも関わったが、もう少し自治会役員の負担を軽減しないと加入率も下がってしまう。それに合わせてデジタル化の推進という部分もあるのかもしれない。

【出席者】

- ・ PTAでも様々な連絡などをLINEで行っており、それもただのグループ以外でも、LINE Worksのようなシステムもあるため、どう取り組んでいくのが良いかを考えながらやっている。新しいものが導入されていく最中は、サイバー攻撃や管理者の負担など、様々な大きい負担があると思う。慣れてしまえば非常に便利なものだと思うが、その過程は多々問題があると思うため、それをクリアしていただきながら、私どもの組織も行政も、これから時代に合わせたものを進めていければ良いと思っている。
- ・ 先ほどの話で、若者たちには今の行政が発信している情報伝達手段では、実はもう届いていないということについて、広報紙は若者もそうだが、保護者の世代もほとんど見ない。回覧板が回ってきてても、私の目に触れる前に次の人にいってしまうという現状もある。そのため、空宇宙博などでこどもたちのためにイベントをやっていただきても、その情報が、現在行政がやっている手法では届いていないというのが問題としてあると思う。かといって、市としてTikTokをやるのかというのも問題があるかと思うが、今までより伝わりにくい世の中になっていくことは事実として踏まえ、新しい手を打っていただきたいと思う。また、先日の市議会でも、広報紙が月2回から1回の発行になるということがあったように、ただでさえ見ないものが、さらに少なくなってしまうと本当に困ると感じているため、アイデアは持ち合わせていないが、そこを大きな問題として捉えていただきたい。
- ・ 保護者とこどもたちが、GIGAスクール構想のおかげで全員端末を1つ持つており、スマート連絡帳という、学校からのことが保護者、こどもに届くような仕組みがある。管轄は教育委員会と他の部署で違うと思うが、子育て世代やこどもたちの手元に情報が渡る術はある。課を越えて、例えば空宇宙博のイベントは、スマート連絡帳で情報が流れてきて文句を言う親はいないため、必要なものであれば、既存のものを、管轄を越えて利用しながら、より情報が届くようにご尽力いただきたい。

(2) 企業版ふるさと納税活用事業の効果検証**«事務局より説明»**

- ・ 資料3-1：企業版ふるさと納税活用事業の効果検証について
 - ・ 資料3-2：企業版ふるさと納税活用事業の効果検証シート
- ⑨新特別支援学校整備事業（教育総務課）
⑩岐阜かかみがはら航空宇宙博物館運営事業（人材派遣型）（観光交流課）

【出席者】

- ・ 企業版ふるさと納税の寄附について、どのようにして集まったのか、また、どういった方々から特に多かったのかなどを教えていただきたい。

【事務局】

- ・市長がトップセールスとして、企業を回るときに、事業を紹介し寄附をお願いしている。

【出席者】

- ・営業がないとなかなか集まりにくいと思うため、引き続き営業に取り組んでいただければと思う。

【会長】

- ・様々な自治体と連携されているが、寄附に関するノウハウをお持ちではないか。

【出席者】

- ・どうしたら企業版ふるさと納税が集まるのかという話を多く聞く。また、噂ではあるが、東京の会社は地方とつながりたいということも聞くため、どうにかして繋げられないかとも考えている。

【事務局】

- ・関わりがない市に対しても、寄附をしてもよいと考える企業もあると聞いているため、そういう企業から本市に寄附してもらえるような仕組みについて考えている。

【会長】

- ・揖斐川町の企業を訪問して話を聞くと、ふるさと納税で何かを買ったと言っていた。どのような企業があり、どのような事業をしているかを知らないとお金も出せない。そのため、企業と自治体や地域を繋ぐ仕組みづくりは、とても大事だと思う。

(3) 地方創生に関する意見交換

【会長】

- ・去年の懇話会では、出席者の取組について紹介してもらったが、企業や市民からも、こういうまちづくり・地域づくりをやってみたいという希望が出てもいいと思う。

【出席者】

- ・各務原市には空宙博などはあるものの観光資源が少ない。11月3日にマーケット日和というイベントがあり、もう12回続いているイベントだが、毎回1万人以上が訪れており、これも観光なのではないかと思う。
- ・市民公園、学びの森の方にたくさんのお客さんが来ていただけているため、これをどのようにまちづくりにつなげたらいいかということを事業としてやっている。去年から本格的に国交省のウォーカブル補助金という、まちを回遊する仕組みをつくることに対する補助金を受け、事業を進めているが、新しい店舗も増えてきており、今年度も新しく3、4軒がオープンした。応援に来ていただけるお客様に、そのまま帰らずに少しでも寄ってもらえる仕組みをつくっている。こういったものも、外から各務原市に来ていただくきっかけだと思っている。去年お店をオープンした何軒かの方々の中にも、各務原市に住所を移す方がおり、少しずつ移住も増えてきていると感じる。

【会長】

- ・若者から見て、最近の各務原市の変化はどうか。面白くなっているか。

【出席者】

- ・11月3日のイベントは私の大学も参加する。学生たちが企画して、地域の親子や様々な年代の人に対し料理を出して楽しんでもらえるよう、学生が企画し、学生自身がそれを発信して来てもらうということをやる。若い人たちに来てもらうためには、学生や若い人たちが企画し、若い人たちが発信することが一番良いと思う。

【出席者】

- ・やはり発信が足りない。時代に合った発信の仕方を考えないといけない。そうしなければ誘客できない。かといって、テレビのコマーシャルは高額のため、ローカルな発信方法について、地域の住民を含めて検討する時期だと思っている。

【出席者】

- ・昨年もこの会議に出席したが、VRテクノセンターの松原社長も出席されていた。こどもたちに地元の産業や、各務原市が航空宇宙産業のまちであることを伝えるため、ここで知り合ったご縁で、松原社長にお願いして高校に来ていただき、航空宇宙産業などの各務原市の産業について講演をしていただいた。また、空宇宙博もPTAとしてイベントをいつも開催させていただいている。
- ・商工会議所とも元気まつりと一緒にやらせていただくなど、様々なところで様々な方が様々な活動をしているが、そういうものが、それぞれ単独で行うのではなく、いろいろ交わりながら、団体の垣根を越えて、市民やこどもたちのために活動していくことがこれからは必要だと感じている。

【出席者】

- ・ものづくりのまちであることのPRに商工会議所としても取り組んでおり、今年は万博が開催されたが、大阪の八尾市とつながりがある関係で、万博で各務原市のものづくりのPRを行った。もっと外部に各務原をPRできるよう引き続き取り組んでいきたい。

【会長】

- ・総合計画も地方創生もそうだが、市民や民間企業の皆さんができるどのような活動をしているかというのを地方創生の計画に入れしていくと、もっと楽しいものとなり、みんなが一緒に動いてくれる形になると思う。
- ・先日メディアコスモスでイベントを行っていたが、それがNHKのクローズアップ現代に「にぎやかな図書館が創る「新しい居場所」」というテーマで取り上げられた。また、メディアコスモスで行ったイベントに、今年初めて各務原にも声をかけて来てもらったが、そのような行政を超えた連携もある。
- ・連合に岐阜大学で授業をしてもらったが、企業の中堅の人たちが学生に話すとインパクトが違う。人手不足で人口が流出する時代に、どのように地元で働いて暮らしてもらうかを狙っている。

【出席者】

- ・働いている人たちが、どのように働いているかを話す場がなかったが、それを岐阜大学で今年1年間の講座として実施した。各労働組合の委員長が、毎週水曜日に伺い、「うちの会社ではこういうものを作っている」などの話をした。発信もそうだが、コミュニケーションやキャッチボールの部分について、今回大学へお邪魔させていただき、若者へのアプローチ方法など我々にもかなりメリットがあった。素朴な意見が出るため、自分たちでは当たり前だと思っていたことが知られていないことや、不思議だと思われていたこと

	<p>がわかった。こういったことを聞きたいという要望があれば、我々も発信する用意はあるため、お呼びいただきたい。</p> <p>3 その他 【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は11月28日の14時から、この会場で開催する。 ・これをもって、令和7年度第1回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会を閉会する。
資料	<p>資料1 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会構成員名簿</p> <p>資料2-1 デジタル田園都市国家構想交付金事業等効果検証について</p> <p>資料2-2 デジタル田園都市国家構想交付金事業等効果検証シート</p> <p>資料3-1 企業版ふるさと納税活用事業効果検証について</p> <p>資料3-2 企業版ふるさと納税活用事業効果検証シート</p>
備考	